

半導体漫遊記

湯之上隆

39

6月6日、熊本県工業連合会主催の「平成24年度ソーラーエネルギー等事業推進協議会及びセミコンフォレスト推進会議総会」(随分長い名称だ)で、題目「日本DRAMは4回敗戦した」について講演した。

私の前にホンダソルテックの数佐明男氏が、CIGS薄膜(銅、インジウム、ガリウム、セレンを原料とした化合物半導体、これも長い!)を用いたホンドの太陽光発電について講演した。

日本DRAMの4回敗戦

低収益率は改善されず

字を計上していたから退職して同志社大学だ。この時、NECと日立の合併により、日本唯一のDRAMメーカー・エルピータが誕生した。私は志願して日立からエルピータに日向した。そのエルピータは合併による混乱と摩擦で果を報告した際、ある取締役から「湯之上は敗戦から」湯之上は低収益率という本質的な課題は何

戦」は4回もある。最後に倒産寸前に追い込まれた。これが2回目の敗戦(私はNECと1年にエルピータが叩き出された)。02年に新社長に就任した坂本幸雄氏がこの窮地を救った。新社長悪いエルピータは苦境に立たされた。09年に1回目の敗戦は2000年。日本はDRAMから撤退した。日本の各社は利益率が悪く、不況のたびに大赤字を吹き返した。日立は産業再生法の適用を

「平成24年度ソーラーエネルギー等事業推進協議会及びセミコンフォレスト推進会議総会」での講演会にて



「日本のDRAMは合計4回敗戦した」
結局、低収益体質は何も変わっていない
講師 微細加工研究所 所長 湯之上 隆氏

くの方と名刺交換をし、感想を聞かせていただいた。幸いにも「刺激的だった」、「考えさせられた」、「こんな裏話があったのか」と良い評価を頂いた。(半導体技術者・社会学者)